



目次

CONTENTS

- 在日米軍従業員永年勤続者表彰式典 2
- 沖縄県在日米軍事事故対応に関する合同協議会 ... 3
- 防衛施設周辺対策事業..... 4
- 嘉手納飛行場における訓練移転中の騒音発生状況 ... 7
- 県道104号線越え実弾射撃訓練分散・実施 ... 8
- ギンバル訓練場の返還に伴う移設 10
- 沖縄防衛局長感謝状贈呈式..... 11
- お知らせ 12



～平成21年度在日米軍従業員永年勤続者表彰式典～

(表紙写真)

沖縄防衛局は、県内の米軍基地に勤務する在日米軍従業員約9,000人の労務管理等事務を行っており、この人数は、沖縄県庁職員約20,000人に次ぐもので、民間で大手の沖縄電力社員約1,600人の5倍以上にもなっています。

また、この米軍従業員の労務管理に係る予算は、平成21年度において約465億円、内訳は、従業員の給与等従業員対策経費が約402億円、社会保険料等の福祉対策経費が約63億円となっています。在日米軍従業員の労務管理等については、使用者である在日米軍と法律上の雇用主である防衛省が共同で実施しており、去る10月28日に、従業員の福祉対策の一環として、「平成21年度在日米軍従業員永年勤続者表彰式典」をラグナガーデンホテルにおいて執り行い、625名の従業員が表彰されました。

表彰式典では、主催者を代表して真部沖縄防衛局長から、続いてメアリー・アン・クルサダーシン在沖米海兵隊基地司令官から式辞が述べられ、その後、各軍の受賞者代表に対し、沖縄防衛局長から表彰状が授与され、各軍の司令官等から記念品が贈呈されました。また、来賓として出席された安里沖縄県副知事、高嶺県議会議長、クレア・カネシロ在沖縄米国総領事館首席領事、與那覇全駐労沖縄地区本部執行委員長から祝辞が述べられました。

この永年勤続者表彰式典は、勤務年数10年、20年、30年、40年を迎えた従業員の労をねぎらい、併せて労働意欲及び作業能率の向上を図ることを目的とし、毎年10月頃に開催されています。

最後に、今回の表彰式典の円滑な実施に尽力いただきました在沖米軍、労務管理機構、さらには本式典に御出席された来賓の皆様方に心より感謝申し上げます。



沖縄県在日米軍事故対応に関する合同協議会

平成16年8月、米海兵隊のヘリコプターが沖縄国際大学に墜落する事故がありました。このような沖縄における米軍事故に対しては、政府一体となった取り組みが必要であるとの考えの下、国は、在沖米軍関連事故が発生した際、現場における関係機関の連携強化を図り、政府一体としての危機管理を実現するため、同年10月、内閣官房に沖縄危機管理官を設置しました。更に、同年11月、外務省沖縄担当大使を議長として、那覇防衛施設局長(当時)、沖縄県警察本部長、第十一管区海上保安本部長及び内閣官房沖縄危機管理官を構成員とする「沖縄県在日米軍事故対応に関する合同協議会」を設置し、在沖米軍関連事故発生時の現場において国として迅速な対応がとれるよう体制を強化しました。

第11回「沖縄県在日米軍事故対応に関する合同協議会」



平成21年11月5日、外務省沖縄事務所において、第11回沖縄県在日米軍事故対応に関する合同協議会が開催されました。

今協議会には、外務省沖縄担当大使、沖縄防衛局長、沖縄県警察本部長、第十一管区海上保安本部長、内閣官房沖縄危機管理官ほか12名が出席し、米海軍との合同図上訓練の実施結果について報告がなされ、また、米海軍との合同実動訓練や日米間の実務担当者の協議等、今後の合同協議会の活動計画について説明が行われました。

「沖縄県在日米軍事故対応に関する合同協議会」では、設置以降、様々な取り組みを行っているところであり、その取り組みの一部についてご紹介します。

米海軍との合同図上訓練

平成21年10月20日、牧港補給地区において、米海軍所属の航空機が提供施設区域外の陸上に墜落し、パイロット及び搭乗員が負傷、更に事故現場付近の民間人が負傷するとともに車両、街路樹等が損傷を受けたとの想定の下、日米関係機関の初動対応要領を確認し、点検・見直しを図るとともに、日米双方の理解及び協力を深めることを目的として、米海軍との合同図上訓練が行われました。

この訓練では、日本側からは、沖縄県警察本部、豊見城警察署、那覇市消防本部、緊急対策チーム(ERT)などが、米軍側からは、在日米軍沖縄地区事務所や在沖米四軍の関係部署の隊員らが参加しました(総勢約60名)。

参加者は事故想定に従い、発生時の通報連絡、消火活動、救出救助活動、立入規制、その他一連の初動対応について説明、質疑応答を行い、関係機関の迅速確実な対応を相互に確認することができました。



池田管理部次長

「沖縄県在日米軍事故対応に関する合同協議会」の枠組の中に、事故現場周辺で活動を目的とした、

**「米軍事故対応現地緊急対策チーム
エマージェンシー レスポンス チーム
(Emergency Response Team)」**

略称**ERT**が設置されています。

参加メンバーは、合同協議会を構成する機関の職員の中から指定された職員で、沖縄防衛局からは4名の職員が参加しております。

防衛施設周辺対策事業

自衛隊や在日米軍は、防衛施設周辺の皆さんの暮らしに配慮しながら活動しています。しかしながら、航空機の騒音、演習場での訓練などでどうしても影響を及ぼす場合があります。そこで、防衛施設周辺地域との調和をはかるための施策として、防衛施設周辺対策事業を実施しております。

「防衛施設周辺対策事業」シリーズ第3回の掲載となりますが、今回は、「障害防止工事の助成(一般障害防止)」について、制度の概要をご説明するとともに、当局担当者(企画部周辺環境整備課、東江技官・島袋事務官)をインタビューにより紹介させていただきます。

1. 「障害防止工事の助成(一般障害防止)」の制度概要

障害防止工事の助成(一般障害防止)とは、例えば、自衛隊等の機甲車両による走行訓練や実弾射撃訓練といった演習行為に伴い防衛施設内の原野等が荒廃、裸地化することにより、降雨時に雨水の地下浸透が少なくなり、多量の土砂とともに表面水として流出し、防衛施設周辺地域に洪水被害が生じ市町村等がこの障害を防止又は軽減するために必要な工事を実施するとき、国がその工事に要する費用の全部又は一部を補助するというものです。

なお、補助の割合は10分の10としていますが、障害の発生が自衛隊等以外の者の行為にもよる場合などは、その限度において補助の割合を減ずるものとしています。

★「一般的モデル」は次のとおりとなります。

一般障害防止の一般的モデル

- ★防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律第3条第1項
- ★防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律施行令第1条～第3条

土砂流出対策

- ◆流出する土砂を止めるため砂防堰堤などを整備します。
- ◆裸地、崩壊地に対し、緑化工事等(種子吹付、砕石舗装等)を行います。



貯溜型砂防ダム(キャンプ・ハンセン)

洪水対策

- ◆洪水時に対応できるよう河川や排水路を改修します。
- ◆降雨の際、増水した水を徐々に流すよう洪水調節池を整備します。



新川改修工(恩納村)

演習行為により地表の荒廃した土地は降雨により洪水や土砂流出が生じ、防衛施設周辺地域に障害を及ぼすことになります。



演習行為により地表の荒廃した土地は保水力が減退し、防衛施設周辺地域の水田等の用水不足という障害を及ぼすことになります。

用水対策

- ◆農業用水の確保を目的として溜池などを整備します。



唐小堀溜池(伊江村)

2. 当局担当者インタビュー

Q この仕事を担当してどのくらいですか。

A



東江裕二と申します。私は、入局して8年、障害防止の担当は3年目になります。



島袋幸輝です。私は、今年の4月に新規採用され、その配属先で障害防止の担当となりました。



Q この仕事が一番難しいところは何ですか。

A

やはり、補助事業実施の必要性(障害の原因及び状況等)を判断するところですね。また、障害の原因が自衛隊等の行為のみならず、それ以外の者の行為にもよる場合には、その割合がどの程度なのかを判断するところも非常に難しいものがあります。(東江技官)

私は事務官です。障害防止は土木工事が主ですので、先ず、土木用語を理解することから私の頭を悩ませています。(島袋事務官)

Q これまで「障害防止工事の助成(一般障害防止)」を担当してきた中で印象に残っている出来事などあれば教えてください。

A

本年4月、先輩に始めて現地調査で伊江村に連れて行ってもらった時に目の当たりにした農業用「溜池」の規模の大きさにビックリしたことです。(島袋事務官)

担当して間もない頃、険しい山道を歩き、尾根や谷を登り下りして、やっとたどり着いた沢に設置されている「谷止工」などを見たとき、こんな作業条件の困難な場所によく見事に完成させたものだと、諸先輩方や建設工事に従事された方々の苦労や努力を考えさせられ、ただただ感心と驚きで一杯になったことを記憶しております。(東江技官)

Q この仕事に携わって良かったと思うことは何ですか。

A

自分が携わった補助事業の完了現場を見て、この施設を整備したことにより、防衛施設周辺地域への障害が防止・軽減されることを実感し、更には、市町村担当者より「地域住民から感謝されました」などと伝えられたときなどです。最近の事例として、「知念分屯基地周辺障害防止対策(周辺洪水対策)事業」がありますので、この事業の概要について、後ほど、南城市担当者のコメントによりご紹介させて頂きたいと思います。(東江技官)

市町村担当者と打合せの際、雑談で、市町村の特産物、観光地或いは歴史・文化などの話が聞けるところです。とても勉強になります。(島袋事務官)

Q 最後に、今後の抱負とか、何か伝えたいことなどあればお願いします。

A 自分の仕事が増えると言うことは、それだけ防衛施設周辺地域に障害を及ぼしている(防衛施設周辺地域の住民の皆様方にご迷惑をお掛けする)ということになりますので、なるべく障害防止工事が少なくなれば良いことだと思いつつ、他方、現状として自衛隊等の行為により生ずる障害もありますので、その障害を防止・軽減するため、市町村等の担当者と連携を密に図り、より効果的かつ効率的な事業を実施し、障害の防止・軽減に努めてまいりたいと思います。(東江技官)

一日も早く、先輩方に戦力として認めて貰えるように、そのため日々勉強です！(島袋事務官)



●南城市担当者(都市建設課・嶺井係長)のコメント

防衛省補助における障害防止対策事業において、今般、知念分屯基地の下流域の洪水被害を防止するための排水路、沈砂池等の整備工事を実施してきたものです。この排水路等の整備により、降雨時における洪水被害等を防止できるようになり、地域住民から「これで大雨の時も安心して生活ができます。」との感謝の言葉を耳にするに当たり、本事業に携われてきたことに対して大変うれしく思っております。

南城市としましては、これからも市民が安全・安心して暮らせる街づくり、生活安定及び福祉の向上等に取り組んでまいりますので、今後においても沖縄防衛局のご指導、ご支援をよろしく申し上げます。

〔 事業名 : 知念分屯基地周辺障害防止対策(周辺洪水対策)事業 〕



(雨水を安全に流下させる沈砂池・排水路工)



(土砂流出を防止、軽減する谷止工)

嘉手納飛行場における訓練移転期間中の騒音発生状況

米軍再編に係る嘉手納飛行場からの訓練移転が10月2日から同月9日までの間、航空自衛隊百里基地で実施されましたが、当該期間中における同飛行場での騒音発生状況は以下のような状況でした。なお、当局におきましては、嘉手納飛行場の飛行状況が把握できる滑走路両端2か所及び同飛行場周辺12か所の計14か所で航空機騒音自動測定装置を設置して騒音測定を実施していますが、以下の表に記載された2か所は、そのうち最も騒音の激しい滑走路両端における騒音の発生状況です。

(測定条件：騒音レベルが70dB以上騒音の継続時間が3秒以上)

日付	場 所	国 道 側	県 道 側	合 計
10月2日(金)		41回	46回	87回
10月3日(土)		43回	24回	67回
10月4日(日)		18回	5回	23回
10月5日(月)		85回	56回	141回
10月6日(火)		18回	26回	44回
10月7日(水)		40回	8回	48回
10月8日(木)		88回	49回	137回
10月9日(金)		97回	32回	129回
1日当たりの平均		54回	31回	約85回

注：台風の接近した10/6及び10/7を除いた当該期間中の1日当たりの平均騒音発生回数は約97回です。

今回の訓練移転期間中における嘉手納飛行場滑走路両端での騒音発生回数は、1日当たり平均約85回で、訓練移転開始前の平成18年度の約175回と比べ減少しています。(平成19年度平均約162回、平成20年度平均約156回)

また、今回の訓練移転期間前(9/25～10/1)における同地点での1日当たりの騒音発生回数の平均は約158回(国道側100回、県道側58回)、訓練移転期間後(10/10～10/16)においては約166回(国道側109回、県道側57回)となっており、これらと比較しても少ない回数となっています。このような状況につきましては、沖縄県をはじめ嘉手納飛行場の関係自治体(三連協：沖縄市、北谷町及び嘉手納町)に対し、説明を行いました。

なお、第18航空団も、今回の訓練移転に当たり、訓練移転期間中は、嘉手納飛行場における航空機の訓練又は同飛行場への展開を制限したとのことです。

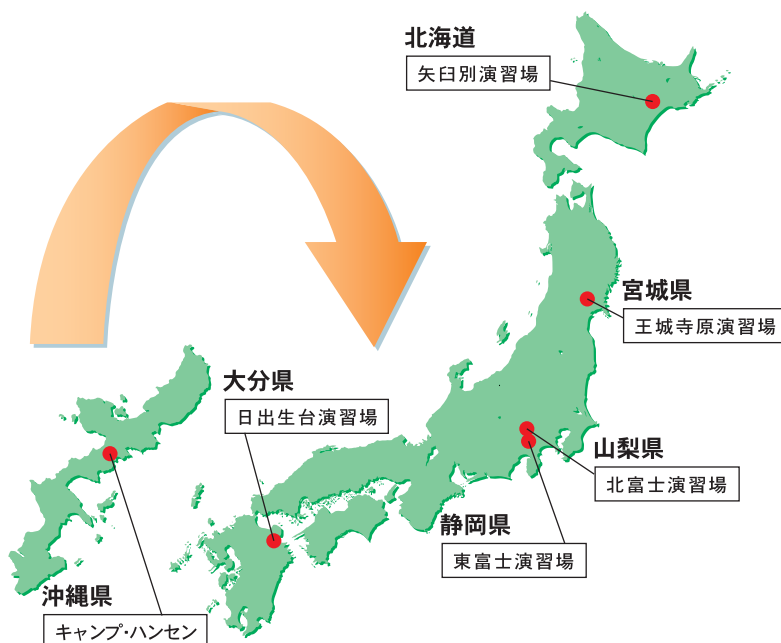
今回の訓練移転期間中の嘉手納飛行場における騒音発生状況を見れば、米側は、訓練移転期間中の同飛行場における他基地所属機の訓練について、相当に配慮したものと考えています。

米軍再編に係る嘉手納飛行場からの訓練移転については、二国間における相互運用性の向上及び周辺住民の方々の負担軽減を図るとの観点から行っているものであり、当局としては、今後とも、米側に対し、可能な限り周辺住民への騒音の影響が最小限になるよう様々な機会を通じて申し入れを行い、周辺住民の方々の負担軽減が図られるよう努力してまいりたいと考えています。



県道104号線越え実弾射撃訓練分散・実施への取組み

平成21年11月2日から同月13日までの間、県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施のため、山梨県北富士演習場で射撃訓練が行われ、当該訓練についての当局職員の取組みについて紹介します。



県道104号線越え実弾射撃訓練とは？

在沖米海兵隊は、キャンプ・ハンセン演習場において、国道58号の恩納村字安富祖と東海岸線を通る国道329号沿いの金武町字金武をつなぐ長さ約8 kmの県道104号線のうち、施設・区域内の区間(約3.5 km)を封鎖して、同県道西側に所在する恩納岳を着弾地として同県道を挟んで4～5 kmの射程距離での射撃訓練、いわゆる県道104号線越え実弾射撃訓練を実施していましたが、平成8年12月の日米特別行動委員会(SACO)の最終報告に基づき、沖縄県民の負担軽減のため、平成9年7月から本土5ヵ所の陸上自衛隊演習場で分散・実施しており、これまでに41回実施されています。

北富士演習場における訓練状況



写真提供: 在沖海兵隊

当局職員は、米軍がこの訓練を実施するにあたって必要な物資等の円滑な輸送のため、米軍や輸送業者と打合せを重ね、物資等の輸送を確認するなどの業務を行っています。

今回の訓練にあたっては、人員約390名、車両約80両、砲6門等をキャンプ・ハンセンから那覇港湾施設等まで車両により輸送しました。

これら物資等の円滑かつ確実な輸送のため、本局及び那覇防衛事務所の職員延べ37名を動員し、朝早くから夜間に至るまで残暑の中汗まみれになり、雨の日にはびしょ

濡れになって当局職員は業者が輸送する物資等を一つ一つ確認し、トラブルもなく輸送は無事に完了しました。

今回の北富士演習場の訓練に限らず、県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施では、キャンプ・ハンセンから港湾等までは当局が、訓練先の港湾等から演習場までは管轄する地方防衛局がそれぞれの輸送が円滑かつ確実に行われるよう早朝から夜間まで同様の取組みをしています。

今後も、県民の負担軽減のため頑張ってもらいます。

【北富士演習場への輸送業務に携わって】

沖縄防衛局管理部業務課 上原 諒子

この業務に携わり今回で3度目。早朝からの業務にも慣れ…と言いたいところですが、やはり数日続くと体に堪える時もありました。そんな中、同僚の協力もあり、無事輸送を終えることが出来ました。

訓練先においても、当局以上に業務があると聞いております。この紹介を通して、沖縄県民の負担軽減のため防衛省を挙げて取り組んでいる事を少しでも御理解頂ければと思います。

【那覇防衛事務所での業務】

那覇防衛事務所業務課 大城 和聖

私の所属する事務所では、当該移転訓練に係る人員や物資等が安全・迅速に輸送されるよう本局と連携して対応しております。具体的には、キャンプ・ハンセンや那覇港湾施設等において物資等の確認及び本局への連絡業務を行っており、当事務所の限られた人員の中で、出発や到着時間の確認、さらにコンテナの個数及び車両台数や積み込み積卸しの確認、写真撮影等々、本局の指示のもと万全の体制で取り組んでいます。

◆業務担当者の一日

10月26日(月)

- 02:00 起床。外は雨
- 03:00 朝食もほどほどに自宅を出発
- 04:00 防衛局に到着。車を乗り換えキャンプ・ハンセンへ
- 05:00 キャンプ・ハンセンに到着
積み込み現場の確認、業者さんとの打合せ、物資の確認等々を済ませた後、束の間の休息
- 07:15 雨の中物資の積み込み開始
砲はクレーンで吊り上げトレーラーへ
- 11:20 キャンプ・ハンセン出発
米軍車両とともに那覇港湾施設へ。このころには雨も止み、気温も急上昇
- 14:00 那覇港湾施設に到着。既に貨物船へ積み込み開始
汗を拭きながら積み込みの状況を確認
- 17:10 貨物船へ積み込み完了
一路防衛局へ
- 19:00 防衛局に到着。早々に報告書類を作成
- 20:00 帰宅の途へ。眠いzzz
- 21:00 帰宅と同時に就寝
土日も休日返上で業務に当たり少々疲れ気味。
でももう一踏んばり
明日も2時起床！頑張ります！



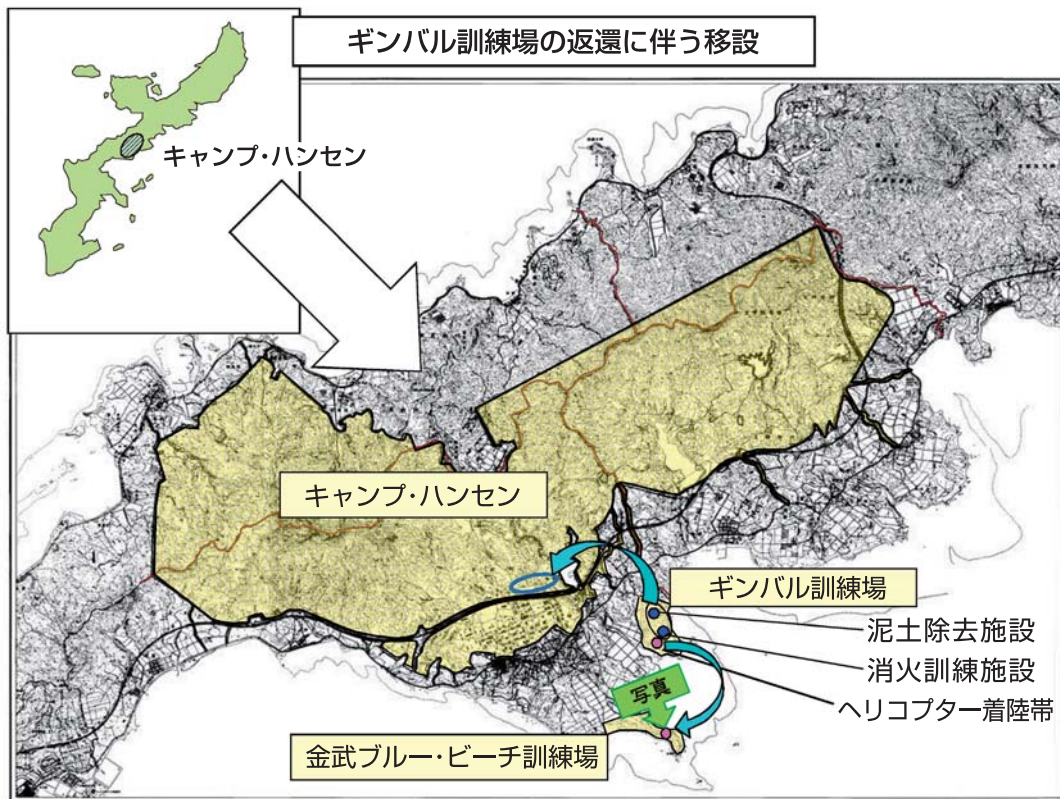
～ギンバル訓練場の返還に伴うヘリコプター着陸帯の完成～

1 工事の概要(移設の経緯)

SACO最終報告に盛り込まれたギンバル訓練場の全部返還については、同訓練場に所在するヘリコプター着陸帯を金武ブルー・ビーチ訓練場に、消火訓練施設及び泥土除去施設をキャンプ・ハンセンに移設後、返還されることとなっています。平成19年6月に地元金武町の受入表明を受け、現在、移設作業を進めているところです。

これら3施設のうち、金武ブルー・ビーチ訓練場に移設しますヘリコプター着陸帯については、平成21年5月に移設工事に着手し、以下の工事を実施しました。

- 1) 着陸帯とする米側設置のランディングマットを敷くための造成工事
- 2) 基地内既設道路から着陸帯までの進入路及び駐車場の整備
- 3) 資材置場の整備等

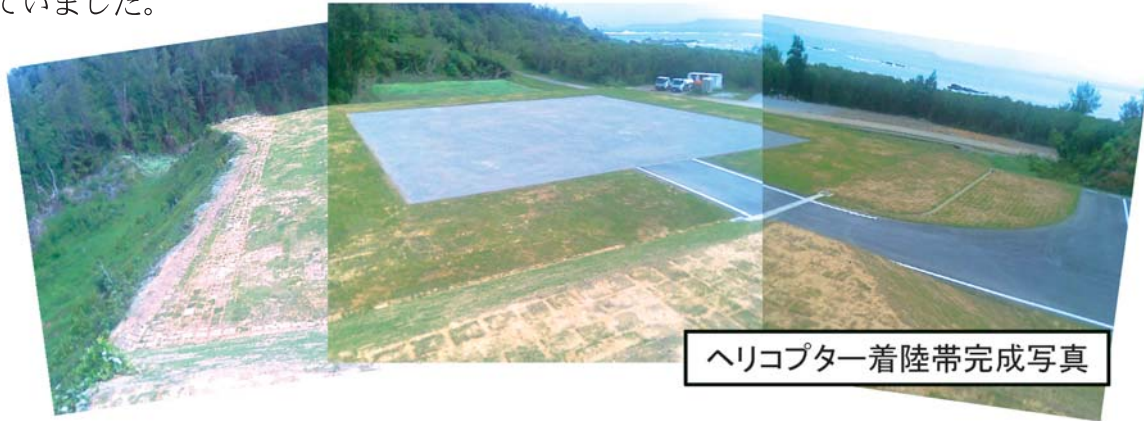


2 赤水対策について

本工事現場は、金武岬入口付近と二方向が海岸に近接した位置にあることから、工事現場からの放流水が、即海域に流出する状況下にありました。

このため、大雨時においても濁水が流出することがないように、赤土を沈殿させる池(沈殿池)の容量を沖縄県条例(沖縄県赤土等流出防止条例)の規定より大きく(約2割増)整備するほか、土壌団粒化剤(浸食防止剤)散布やシート被覆等により裸地部分を最小にするなどの発生源対策、更に放流部に吸出防止材を設置するなどの濁水浄化を行いました。

これらの対策は、現地の土質性状(浸透性等)を熟知した地元施工業者の意見も参考とするなどして立案し、行われたものですが、結果として工事現場からの放流水は常に県条例の水質規定(濁り)を大幅に下回っていました。



3 ギンバル訓練場返還に向けて

本着陸帯移設工事については、工期末を10月31日としていたところではありますが、早期の完了に向け鋭意努め、10月22日に移設工事が完了し、同月29日に日米合同委員会において同着陸帯の提供について合意の上、11月13日に閣議決定・政府間協定の締結がなされました。今後、米側が約30m四方のランディングマットを整備した上で運用が開始されます。金武ブルー・ビーチ訓練場に建設したこの着陸帯が運用されることにより、集落に近接しているギンバル訓練場における訓練が縮小され、地元住民の方々が被っている騒音などの御負担が軽減されるよう、引き続き努めてまいります。

また、キャンプ・ハンセンに移設される消火訓練施設及び泥土除去施設については現在工事実施中であり、これらの移設工事については平成22年度に完了する見込みです。このことから同訓練場の返還は平成23年度以降となるものと考えています。

ギンバル訓練場の返還後は、金武町により跡地利用されることとなっており、沖縄防衛局としましては、この跡地利用が円滑に実施されるよう、移設工事等を確実に進めてまいります。

平成21年度自衛隊記念日における沖縄防衛局長感謝状贈呈式

自衛隊記念日(11月1日)に当たり、去る11月4日(水)、沖縄残波岬ロイヤルホテルにおいて、沖縄防衛局の業務に対し深いご理解と多大なご協力を頂いた関係者3名の方々に沖縄防衛局長感謝状を贈呈しました。

感謝状が贈呈された前名護市豊原区長宮城稔氏、同久志区長島袋庸雄氏並びに現職の同市辺野古区長大城康昌氏にあつては、当局業務の円滑な推進に貢献されたことなどの功績により、真部局長から感謝状が贈呈されたものです。

なお、贈呈式には、現職の同市豊原区長城間正昭氏並びに同久志区長比嘉清隆氏の2名も陪席されました。



前列左から城間正昭豊原区長、比嘉清隆久志区長、大城康昌
辺野古区長、真部局長、宮城稔前豊原区長、島袋庸雄前久志区長

第6回防衛セミナー

お知らせ

開催日

平成21年 **12月15日(火)**

〇18:00開場・受付開始 〇18:30開演 〇20:30終了予定

場所

沖縄産業支援センター 1階ホール
那覇市字小禄1831番地1 TEL:098-859-6234



テーマ

「ソマリア沖・アデン湾における海賊対処と海上自衛隊航空部隊の活動」

講師

海上自衛隊第5整備補給隊副長
「元 派遣海賊対処行動航空隊副司令」

テーマ

「ソマリア沖・アデン湾における海賊問題について」

講師

社団法人日本船主協会 海務部課長

参加方法

- 〇参加無料 〇無料駐車場あり(約300台)
- 〇先着順です。
- 定員(200名)になり次第締め切らせていただきますので、ご了承下さい。
- 〇事前の申し込みの必要はありません。



- 〇バス
金城バス停より徒歩3分
〇沖縄都市モノレール(ゆいレール)
小禄駅より徒歩15分



お問い合わせ先:
防衛省 沖縄防衛局 企画部 地方調整課
TEL:098-921-8131(代)(内線:204, 210, 213)
〒904-0295 沖縄県中頭郡嘉手納町字嘉手納290-9
<http://www.mod.go.jp/rdb/okinawa/>

沖縄県立嘉手納高校九州大会優勝おめでとう

嘉手納高校は、第一二五回九州地区高校野球大会で宮崎工業高校を四―二で下し、初出場で九州制覇を成し遂げました。眞玉橋元博監督の「守り」に重点を置いた指導の下、現在、二年生十五名、一年生二九名の部員四四名が在籍しています。(うち嘉手納町在住の部員二年生五名、一年生四名)

十一月十四日から行われた、第四十回記念明治神宮大会に九州代表として出場しましたが、惜しくも一点差で大垣日大(東海・岐阜)に敗れました。

来春の選抜大会での活躍を期待しています。

米軍基地での勤務を希望される方へ

駐留軍等労働者の事前募集受付中!

応募は24時間いつでも受付可能なインターネットがおすすめです!

HPアドレス:<http://www.lmo.go.jp> **LMO** **検索** で検索できます。



受付窓口・お問い合わせ先: 独立行政法人 駐留軍等労働者労務管理機構 沖縄支部
管理課: 嘉手納町字屋良1058番地1(道の駅「かでな」隣り) TEL (098) 921 - 5532

「はいさい」に対する皆様のご意見・ご感想などありましたらお聞かせ下さい。

連絡先: 沖縄県中頭郡嘉手納町字嘉手納290-9 沖縄防衛局総務部報道室
メールアドレス: houdou@okinawa.rdb.mod.go.jp